

## 主な資料館等と展示品

■ **鳥取県立博物館**  
 休館日：毎週月曜日・国民の祝日の翌日 月曜日が祝日の場合は  
 翌平日が休館。年末・年始（12月29日～翌年1月3日）/入館料：一般  
 (団体) 180円 (150円) 大学生以下無料  
 住 所：〒680-0011 鳥取市東町二丁目124番地  
 電 話：0857-26-8042  
 アクセス：JR鳥取駅から100円バス仁風園・県立博物館下車  
 ここで見られる主な文化財：特別天然記念物オオサンショウウオ、国  
 指定重要文化財「子持勾玉(湯梨浜町高辻出土)」、国指定重要文化財  
 「三角縁神獣鏡(西伯郡南部町普段寺1号墳出土)」、県指定保護文化  
 財「吉川元春祈願状、寄進状」、県指定保護文化財「塩文書」、県指定  
 保護文化財「桂見遺跡出土(丸木舟)」など。

■ **鳥取県埋蔵文化財センター**  
 休館日：土・日・祝日、12月29日～翌年1月3日/入館料：無料  
 住 所：〒680-0151 鳥取市国府町宮下1260  
 電 話：0857-27-6711

アクセス：JR鳥取駅より岩倉線または中河原線岩倉下車、徒歩15分  
 ここで見られる主な文化財：冢形石棺(若美町小畑7号墳)、箱式石  
 棺(倉吉市イキス3号墳、鳥取市大町9号墳)のほか県内遺跡の出土品。

■ **鳥取市歴史博物館(やまごこ館)**  
 休館日：毎週月曜日 月曜日が祝日の場合は開館、祝日の翌日、年末  
 年始(12月29日から翌年の1月1日)/入館料：小中高生無料、一般(団  
 体) 500円(400円)  
 住 所：〒680-0015 鳥取市上町88  
 電 話：0857-23-2140

アクセス：JR鳥取駅より100円バス標榜公園・やまごこ館前下車  
 ここで見られる主な文化財：「高住銅鐸」など。

■ **青谷上寺地遺跡展示館**  
 休館日：毎週月曜日 月曜日が祝日の場合は開館、祝日の翌日、  
 年末年始(12月29日～1月3日)/入館料：無料  
 住 所：〒689-0501 鳥取県鳥取市青谷町青谷4064  
 電 話：0857-85-0841

アクセス：JR青谷駅より徒歩3分  
 ここで見られる主な文化財：青谷上寺地遺跡の出土品(弥生人の頭  
 蓋骨に残っていた脳や人骨、土器、石器、木製品、金属器、骨角器、祭  
 祀や大陸との交流に関わる遺物など。)



● 発行・編集 ●

## 鳥取県教育委員会事務局文化財課

平成22年3月発行

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目271番地  
 電話 0857 (26) 7937 / FAX 0857 (26) 8128

本書で使用している地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万1の地形  
 図を複製したものである。(承認番号 平21業複、第483号及び第619号)  
 本書で使用している地図の複製品をさらに複製する場合は、国土地理院長の承認  
 が必要。



17 旧美敷水源地水道施設 [国指定重要文化財]  
 鳥取市民の飲料水の確保と公衆衛生の向上を主な目的として大正2年に起工し、大正4年9月より給水を開始し  
 た上水道施設。昭和53年まで供用されていた。コンクリート造の貯水池を基盤として、美敷川上流水量堰、  
 通り合量水堰、1号から5号までの南北に配された濾過池等で構成されている。山陰で最初に建設された近代水道  
 施設であり、貯水池、量水施設、濾過施設が良好な状態で保存されている。 JR鳥取駅より車25分



18 桶山古墳 [国指定史跡]  
 古墳時代終末期頃のものと考えられる横穴式石室を持つ変形八角形の古墳。石室には壁面があり、魚や曲線文、  
 三角文が赤黄色の顔料で描かれている。石室は、保存のために閉鎖されているが、年1回秋ごろに公開される。  
 JR鳥取駅より車30分



16 鳥取藩主池田家墓所 [国指定史跡]  
 初代藩主池田光仲から十一代までの藩主のほか藩  
 主夫人や御分知家(東屋)「西殿」当主らが葬られてい  
 る。藩主の墓碑は五石垣をめぐらした台石に3段の台  
 石を重ね、その上に龜を象った「龜跌(きふ)」とよばれ  
 る台石に円頭扁扁な墓標を立てた壮大なもの。藩主以  
 外には、宝塔形の墓碑や江戸時代に一般化した石碑墓  
 標等が見られ、大名家の葬法や江戸時代の墓制を知る  
 上でも貴重な史跡である。豊かな四季に恵まれた墓所  
 では当時の大名家の米軍に思いを馳せる事ができる。  
 JR鳥取駅よりバス20分 宮ノ下口下車徒歩10分



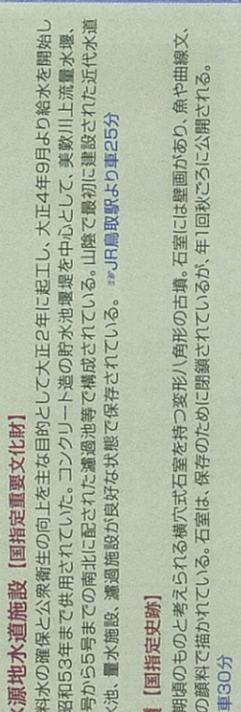
19 夏泊の海女  
 因幡の菖蒲綱引き  
 (旧暦5月5日又はその  
 前後の土・日曜日)



青谷上寺地遺跡出土  
 銅鐸の刺さった人骨



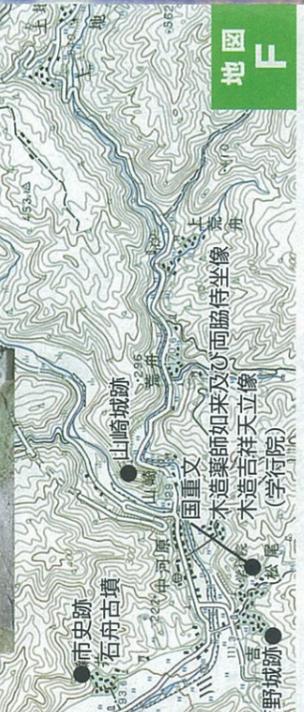
20 国史跡 青谷上寺地遺跡  
 青谷上寺地遺跡は、弥生時代の遺跡。多彩な出土品とその量の豊富さから「地下の弥生博物館」と  
 呼ばれる。出土品は数点に及び、殺傷痕のある人骨や頭蓋骨内に残っていた脳のほか、装飾性に  
 富んだ木製容器や大型の建築部材等がある。弥生人の暮らしの解明するの非常に貴重。出  
 土品は青谷駅近くの青谷上寺地遺跡展示館や、鳥取市青谷町総合支所内の鳥取県埋蔵文化財セ  
 ンター青谷分室で見ることが出来る。  
 JR青谷駅より徒歩3分(展示館)



17 旧美敷水源地水道施設 [国指定重要文化財]  
 鳥取市民の飲料水の確保と公衆衛生の向上を主な目的として大正2年に起工し、大正4年9月より給水を開始し  
 た上水道施設。昭和53年まで供用されていた。コンクリート造の貯水池を基盤として、美敷川上流水量堰、  
 通り合量水堰、1号から5号までの南北に配された濾過池等で構成されている。山陰で最初に建設された近代水道  
 施設であり、貯水池、量水施設、濾過施設が良好な状態で保存されている。 JR鳥取駅より車25分



18 桶山古墳 [国指定史跡]  
 古墳時代終末期頃のものと考えられる横穴式石室を持つ変形八角形の古墳。石室には壁面があり、魚や曲線文、  
 三角文が赤黄色の顔料で描かれている。石室は、保存のために閉鎖されているが、年1回秋ごろに公開される。  
 JR鳥取駅より車30分



19 夏泊の海女  
 豊臣秀吉の命により朝鮮出兵に出陣した鹿野城主龜井茲矩の水先案内人として活躍した筑前国  
 (野福岡)の助右衛門が、その恩賞にこの地を拝領し、妻が海女漁を営むこととなる。  
 主にワカメやモズク等の海藻や、カキ、ササエ等の貝類を採取する。昔ながらの業漁りで漁が盛  
 けられている。  
 JR青谷駅より車5分

20 青谷上寺地遺跡 [国指定史跡]  
 青谷平野にある弥生時代の遺跡。多彩な出土品とその量の豊富さから「地下の弥生博物館」と  
 呼ばれる。出土品は数点に及び、殺傷痕のある人骨や頭蓋骨内に残っていた脳のほか、装飾性に  
 富んだ木製容器や大型の建築部材等がある。弥生人の暮らしの解明するの非常に貴重。出  
 土品は青谷駅近くの青谷上寺地遺跡展示館や、鳥取市青谷町総合支所内の鳥取県埋蔵文化財セ  
 ンター青谷分室で見ることが出来る。  
 JR青谷駅より徒歩3分(展示館)

21 鹿野の町並み  
 尼子氏の運田山中鹿野の婿婿である龜井茲矩により、天正9年(1581)頃に営まれた城下町。  
 二代目政矩が石見国津和野に転封になるまで善政により賑った。一國一城令により鹿城となった  
 が、武家屋敷のあった殿町、商人町の上町や職人町の相屋町などの町割や古い町家が残り、当時  
 の風情を感じさせる。  
 龜井氏は、尼子氏滅亡後は山中鹿野之助に代り主家再興を図って各地を転戦し、その後、秀吉方  
 に属した。備前落城後に秀吉から鹿野城を拝領し、気高郡13,800石(後に高草郡が加増され  
 38,000石)を治める大名となった。この地を拠点とし、シヤム(タイ)等東南アジア諸国と朱印貿易  
 を行い、巨利を得た。この他にも灌漑水路の整備や新田開発に力を注いだ。  
 JR浜村駅よりバス20分 立町下車

# ぶらぶら文化財めぐり



【鳥取市編】  
 今回取り上げた鳥取市内には、「因幡記」に登場する「因幡の白兔」の伝  
 承地があります。神話にまつわる白兔海岸や白兔神社があり、神話の世界を  
 体感することのできる観光スポットとなっています。市の西部には、「地下の  
 弥生博物館」と呼ばれる弥生時代の青谷上寺地遺跡があります。ここから  
 は、大陸との交流をうかがわせる様々な出土品のほか、弥生人の頭蓋骨内に  
 残っていた脳が見つかったこと、学術的にも全国から注目を集めています。  
 また、この地はかつて因幡国の中心地で、現在の鳥取市国府町には奈良  
 時代から平安時代にかけて国府が置かれてきました。歌人として有名な大伴家  
 持は国府としてここに赴任しており、この地で詠んだ歌が万葉集に収められ  
 ています。  
 中世においては鳥取城をめぐり、毛利軍と織田軍による激しい戦が展開さ  
 れた舞台であり、名だたる武将が陣を構えた跡が随所に残されています。  
 江戸時代には因幡・伯耆二カ国を合わせた32万石が池田家の領地となり  
 ました。初代藩主は徳川家康の曾孫に当たる池田光仲であり、最後の藩主12  
 代慶徳まで鳥取城を居城としました。  
 市内には歴代の藩主を葬る池田家墓所があります。四季折々の豊かな自  
 然に囲まれた墓所では、今でも因幡備伯耆32万石の大名家の栄華を感ずるこ  
 とができます。

